

第3回



近鉄大和高田駅・JR高田駅周辺地区 まちづくりワークショップ

概要

第3回は、公民連携に向けた市民参加の課題の把握を目的に開催しました。

■日時:令和5年9月18日(月)

13時30分～15時30分

■会場:大和高田市役所5階EVホール

■参加者:15名

■オブザーバー:近畿大学教授 久 隆浩

■ワークショップのテーマ

まちづくりの課題に対する地域資源を活用した解決策の検討



ワークショップのルール

<カードの種類>

私カード(1枚)



資源カード(49枚)



課題カード(4枚)



【私カードを作る】

- ・「私カード」に、趣味、特技、やりたい事など記入

【課題を決める】

- ・「資源カード」を取る(1人に7枚づつ)
- ・「課題カード」を1枚めくる(基本構想案から抽出した課題)

【解決策を発表する】

- ・資源カード(3枚以内)を使い、課題に対する解決ストーリーを考え発表
- ・発表の最後に必ず「私カード」を出し、「私は〇〇します!」と表明

【実現化にむけて】

- ・全員が発表後、課題ごとに良かった解決策を1つ選択
- ・3つの課題について解決策が出揃ったところで、それぞれ「実現化のために必要なこと」について意見交換
- ・テーブルの代表者がまとめたシートを発表



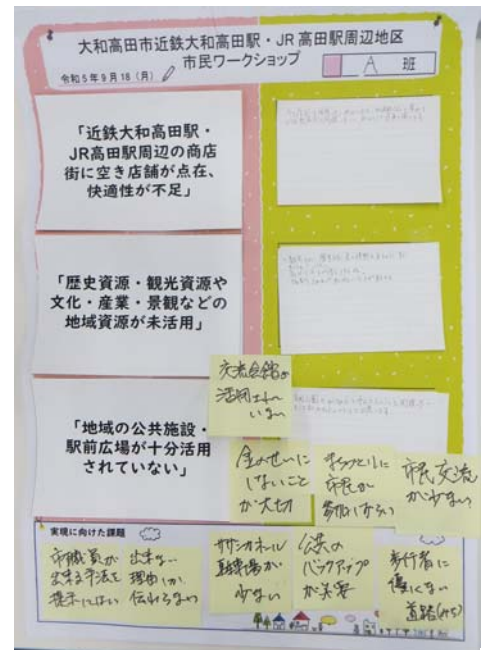
まちづくりの課題と解決策

課題	解決策
「近鉄大和高田駅・JR高田駅周辺の商店街に空き店舗が点在、快適性が不足」	空き店舗を活用して、おじいさん、おばあさんを集めてスマホ勉強会を開催したい。私はそこで写真を撮ります。
「歴史資源・観光資源や文化・産業・景観などの地域資源が未活用」	教会など歴史的に良い建物もあるのに、まだ知られていない。高田川は人が増えてきたかもしれないが、撮影されれば私みたいな人が来るかも。
「地域の公共施設・駅前広場が十分活用されていない」	幸町公園でみくちゃんを呼んでマルシェを開催、そこで私はサンダルブランドで出店します。
実現に向けた課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民交流センターが活用されていない ・お金のせいにしないことが大切 ・まちづくりに市民が参加しづらい ・市民交流が少ない ・市職員が出来る手法を提示して欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・市からは出来ない理由しか伝わらない ・さざんかホールの駐車場が少ない ・公共のバックアップが必要 ・交通量も多く、危険で歩行者に優しい道路（みち）



会場風景

意見は、イベントを開催する「企画型」と、開催されたイベントに参加する「参加型」に分かれました。



まちづくりの課題と解決策

課題	解決策
「歴史資源・観光資源や文化・産業・景観などの地域資源が未活用」	子どもたちの放課後学習でおじいさん、おばあさんの皆さまに昭和の頃に賑わっていた商店街を歩きながら、各店（当時）の紹介や思い出を語ってもらう。
「近鉄大和高田駅・JR高田駅周辺の商店街に空き店舗が点在、快適性が不足」	近鉄大和高田駅・JR高田駅周辺の商店街に空き店舗が多い。借りてがあれば商店街を散歩する利用する、おじいさん、おばあさんが誰でも気軽に立ち寄れる休憩所を空き家空き店舗を改装して設けたい。大和高田の商店街の歴史を写真パネルなどで紹介する。写真展を常設する。ミニ歴史資料館（写真館）としゆぎ丸を説明パネル等に登場させる。歴史を感じながら休憩できるベンチを置きたい。
「地域の公共施設・駅前広場が十分活用されていない」	地域の公共施設の状況（場所、利活用方法〇〇に使える、こんなことやっています等）を中・高・大学生にSNS（インスタ、X、YouTube他）で発信してもらう。意外と使えるのかどうか、どういった事に使えるのか、いつ使えるのなど知られていない事が多い、又はわざわざ調べないと分からない。

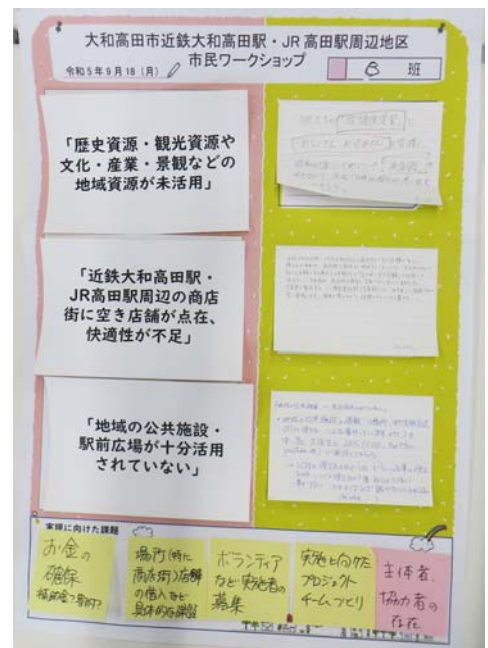
実現に向けた課題

- ・お金の確保（補助金・寄付?）
- ・場所（特に商店街）店舗の借入など具体的な課題
- ・ボランティアなど実施者の募集
- ・実施に向けたプロジェクト
- ・主体者、協力者の存在



会場風景

アイデアの実現には「お金」、「場所」、「実行者の存在」が必要です。



まちづくりの課題と解決策

課題	解決策
「鉄道の待ち時間を仕事や学習で活用できるスペースがない」	【昭和のまち再現・サザエさんのまち】 ・気軽に子ども連れで遊びに行ける ・ママも楽しい、子どもも楽しい ・大人は仕事帰りに一杯ひかける ・毎日一杯ひかけることで他人同士がつながりをつくっていく ・天理駅前広場コフンのイメージ ・地ビールを販売、気軽に一杯ひかけられる環境→ここに来ると誰かに会える→集える場所
「地域の公共施設・駅前広場が十分活用されていない」	・大人の文化祭を定期的かつ継続的に実施する ・参加者は市報やSNSを活用して募集 ・特に市報は文字だけではなくイメージを鮮明に大きく ・その時は夜店も出して盛り上げる
「近鉄大和高田駅・JR高田駅周辺の商店街に空き店舗が点在、快適性が不足」	天神社の秋祭りで実行される地車（だんじり）を市としても広報を積極的に行い、町内会に属さずとも参加できる環境を目指したい。 古い町並み（寺内町）をはじめとする観光資源をQRコード等を活用したアプリを用いて、駅前のレンタサイクルで回れるようにする。

実現に向けた課題

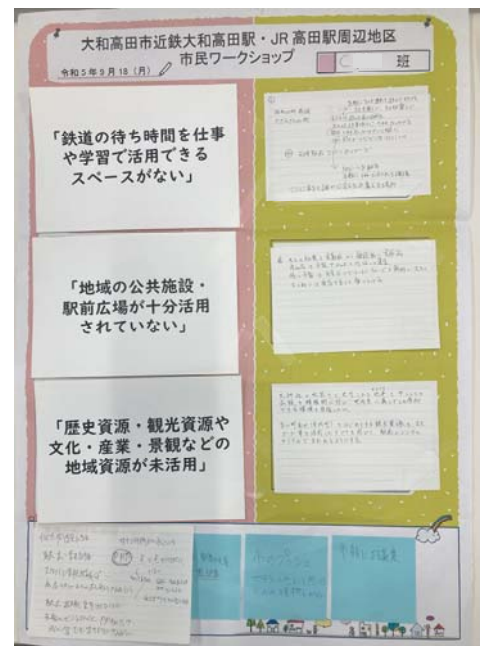
- ・土地はあるが整備が必要
- ・安全性が一番改善が必要
- ・QRコード、観光マップの作成
- ・市報による募集
- ・商店街のおっちゃんたちを取り入れる

- ・文化祭でも定期的開催すればいい
- ・市報のビジュアル化、PR力のアップ
- ・市のプッシュ、やろうとしたいと思っている人への後押しがない
- ・ものはあるのに点と点がつながっていない
- ・秋祭りをして盛り上げる



会場風景

市報を活用した活動支援(まちづくり活動のPRなど後押し)が必要です。



オブザーバーからのコメント

●このワークショップで出てきたご意見は、1つでも2つでも実現していけばいいと思います。本日は「資源カード」というものをいくつか準備していただきました。実際に「私自身」が「資源カード」になってもらうことで色々な事が動き始めるし、実現に近づけるとと思います。本日の参加者に限らず、市民の方お一人お一人が「資源カード」になっていただけることを期待しています。

●福井県の武生市には歴史的な建物がたくさん残っています。30年近く前の話ですが戦前の立派な郵便局が空いていて、保存会の人たちが市役所に残して欲しいとお願いにいったのですが、お金がないので買い取れませんとのことでした。ある時、ある方が自分で借りたらいいと思いつき、事務所兼自宅にしました。誰かに頼むよりも自分で借りたら一軒の建物は保存できます。そのように皆が自分に出来ることを探して、積み重ねていくことがとても重要だと思えます。人を動かすのは難しいのですが、自分の出来る範囲で自分が頑張ればいいと思います。

●先ほど、天神社のお祭りの話が出ていましたが、お祭りは地域の方々が花代を出し合って祭りを行っている訳ですから、このような流れでイベントが開催されるといいと思っています。例え話としてよくする話ですが、カラオケって自分で歌っているのにお金を払っていますよね。そういった自分の楽しみにお金を払える人たちが増えていくと、どんどんお金も集まりますし動いてもらえるのではないかと思います。

●今日をきっかけに、自分で動かせるところから始めていければと思います。これからもよろしくお願いします。



具体的なまちづくりに向けて

ワークショップ参加者の感想

- ◇自分から動くことから始めるという先生の言葉が印象に残った。
- ◇4回目は構想ではなく実現に向けた話がしたい。
- ◇もっともっとワークショップが広がるといいと思う。等々

10月9日(月・祝)
ワーキング会議の様子

『大人の文化祭』の実現に向けて・・・

久先生にご指摘いただいた、“「私自身」が「資源カード」となり、自分で動かせるところから始める”を実践するため、ワークショップ参加者が提案した『大人の文化祭』実現に向けて、会議を始めました。

